

米と日本人

国士舘大学21世紀アジア学部教授

● 原田信男

米と日本人との歴史を振り返ってみると、日本人の生活が米と非常に深く関わっていたことが分かります。モンスーンアジアの片隅で、比較的温暖な気候に恵まれ、たっぷり水を蓄えてくれた山林に囲まれ、ちよつとした平地があれば、それぞれの時代の技術に応じて、これを水田として開き、できるだけたくさん米を作ろうと努力してきたのです。

しかし水田は水平でなければならず、しかも季節に応じて水を引き、そして抜くという高度な人工的装置であったため、斜面地や低湿地など水田に向かない土地も決して少なくはありませんでした。それ故前回にも見たように、日本人全員が腹いっぱい米のご飯を自由に食べられるようになったのは、つい近年のことなのです。

一般に日本人は米食民族と考えられています。厳密には農学者・渡部忠世先生がおっしゃったよう

に、米食悲願民族だという方が正しいのです。銀舍利という言葉は新しいものですが、古くから米を舍利と称して、ブツダの骨に見立て、尊い食べ物としてきました。

すでに私たちの食生活は、米を中心とした食文化体系のうちに取り込まれています。主食のみならず、さまざまな発酵調味料にも米こうじ菌が重要な役割を果たしていますし、嗜好（しこう）品である菓子やお酒の主材料も米です。食生活が洋風化したとはいえ、私たちの食文化に米の存在は欠かせません。海外旅行に出ても何日かすると米のご飯を食べたくなる方も多いと思います。かつて米食否定論が横行したこともありましたが、私たちの国の風土や歴史をきちんと見直すなら、米食を否定する理由はどこにもありません。

米という栄養価が高く人口支持に優れた植物の生育に適し、これを栽培するための水田を作り出してきた日本では、米の消費量が減少することはあっても、消費そのものが消えることはあり得ないと思います。



農報

術・資材などの
けします。

果樹



3月の柑橘園管理



果樹

山下 俊二

下島管農指導センター
080-1729-1632

1. 家庭選別の徹底（貯蔵中の管理）

河内晩柑では本格的な収穫期に入ります。収穫前には貯蔵病害の消毒を徹底し、収穫しましょう。

2. 河内晩柑の収穫基準

品 種	区 分	収穫時期	予 措
河内晩柑	適期採取	2/20～3/31	14日（3%）
	後期採取	4/1～4/30	7日（2%）
	木成り採取	5月以降	—

3. 病虫害防除

去年の1月末の寒波によって樹体が非常に落ち込んでいた事で、ハーベスト、ボルドーの散布は控えるようお願いしましたが今年は問題なく散布ができますので、散布時期が遅れないようお願いします。

また、収穫する前には、貯蔵病害等の防除を行い、腐敗果を抑えましょう。クラッキングやヤケ果には注意してください。

農薬散布の際は収穫前日数に十分注意してください。

対象病虫害	品 種	農薬名	希釈倍数	備 考
かいよう病	温州 中晩柑	IC ボルドー 66D	60倍	3月中旬 (発芽前)
	ミカンハダニ	ハーベスト オイル	80倍	3月中～下旬 (発芽前)

※12月に温州みかんに散布されなかった園では発芽前にハーベストオイルを80倍で散布して下さい。

4. 施 肥

栽培タイプ	肥料名	品種名	施肥時期	10a 当たり
通常タイプ	熊本果樹肥料 10-7-4 ひのくに果樹 9-3-3	極早生温州	3月上旬	4袋
		ポンカン	3月上旬	5袋
	清見・河内晩柑 甘夏・パール柑	3月上旬	4袋	
省カタイプ	熊本デコポン 8-3-3	デコポン	3月上旬	3袋
	アグリロング 28号	清見・河内晩柑・ 甘夏・パール柑 デコポン	3月上旬	6袋 6袋

5. 樹勢回復・着花対策

収穫が終わりましたら、尿素等を3回程度葉面散布して下さい。その後、花が少ないと予想される園では花芽分化促進を目的に、ファームント等を3回程度葉面散布して下さい。

目的	薬 剤 名	希 釈 倍 数	備 考
樹勢回復	尿素	500倍	収穫後3回程度集中散布を行う
	アミノジューシー N14		
花芽分化促進	神協スピリッツ	500倍	樹勢回復終了後3回程度散布
	ファームント ジューシーエース		

水稻



水稻農作業メモ



水稻
吉田 義文
指導販売部
0969-22-1105

田植え

4月上旬より田植えが始まります。苗は、田植えの5日前位から育苗ハウスのサイドビニールを下げて、外気に充分ならしましょう。(遅霜の場合は注意して下さい。)

- ①田植えの適期は4月5日から15日です。
- ②植え付け本数は、坪当たり55～60株程度、1株の苗数は3～5本が標準となります。苗数が多くなると過繁茂の原因となり、倒伏や病害虫が発生しやすくなりますので注意しましょう。田植機の整備・調整は事前に必ず行って下さい。
- ③植え付けの深さは活着や分けつ等に大きく影響しますので、2～3cmを目安としましょう。

水管理

暖かい日中は浅水にしますが、活着するまでは朝晩冷え込むことがありますので、新しい根が出るまでは深水にしましょう。活着後は浅水管理で水温・地温の上昇を図り、分けつの促進に努めて下さい。

病害虫防除

初期では、イネミズゾウムシや葉いもち病が防除の中心となります。田植え前に必ず箱施薬を散布むらがないように施用しましょう。1箱当たりの散布量は50gとなります。

移植後の活着を促進する為に、活着肥としての硫酸(7kg/10a)の散布を行って下さい。

尚、作業省力の為にJAでは「ハイパーCDU」の使用も可能です。この場合は、田植時の箱苗に100gをむらなく散布して下さい。

除草剤は、田植え後5日から15日に散布し、その後は湛水状態を5日程度保って下さい。水の掛け流しや、土の表面が見えるような場合は、除草の効果が落ちます。

浅水状態で土の表面が見える場合は秋起こし時に土の移動を行い均平にしましょう。

箱施薬や除草剤の使用方法は早期水稻耕種基準に記載しています。

営情

作物・営農・技術情報をお届

野菜



野菜類防除基準

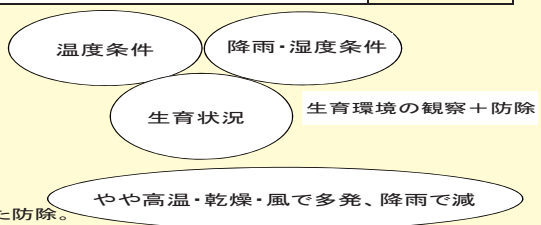


野菜
田中 直
上島営農指導センター
080-1729-1636

I 病害虫防除

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病害	灰色かび病		立枯病		黒斑病、斑点細菌				立枯		灰色かび病	
虫害	アブラムシ・ハダニ											
	アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、オオタバ											
病害	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
灰色かび病	ボトキラー水和剤 1000倍 使用回数制限なし 発病前											
斑点細菌病	コサイドボルドー 1000倍 使用制限なし											
黒斑病	Zボルドー 500倍 使用制限なし											
軟腐病												
うどんこ病	カリグリーン 800～1000倍 回数制限なし 収穫前日まで (トマト・ミニトマトは除く)											
さび病	硫黄粉剤50 3kg/10a											
	ジーファイン水和剤 1000倍 使用制限なし 収穫前日まで (なすは除く)											
アブラムシ	サンクリスタル乳剤 300倍 収穫前日まで (なす・トマト・ミニトマトは除く)											
ハダニ	硫黄粉剤50 3kg/10a											
	アカリタッチ乳剤 1000～3000倍 使用制限なし 収穫前日まで											
アオムシ	デルフィン顆粒水和剤 1000倍 使用制限なし 収穫前日まで 発生初期											
コナガ	ゼンターリ顆粒水和剤 1000～2000倍 使用制限なし 収穫前日まで 発生初期 (はくさいは除く)											
ヨトウムシ	トアローフロアブルCT 1000～2000倍 使用制限なし 収穫前日まで 発生初期 (※オオタバコガ500～1,000倍)											
オオタバコガ	※上記の剤は同一種類剤(BT剤)のため、散布回数は、総計で4回まで											

- 病害防除**
- 降雨の後に防除
 - テツが効いて軟弱な場合には注意
 - 温度が下がってきたら、べと病の防除
 - 乾燥してきたらうどん粉病の防除
 - 雨が多い場合は細菌病、カビ病ともに予防剤散布
 - 風が良く当たるところでは細菌病が多い(防風ネット利用)
- 虫害防除**
- 強い風が吹いたら、虫が増える
 - 乾燥したらダニが増える
 - 雨が多いと、全般的に虫は少ない
 - 虫が見えたら防除。7日～14日後に卵や蛹が成虫になるのでまた防除。



※ 防除薬剤は「薬剤の種類」、「希釈倍数」、「散布液量」、「散布回数」に注意し、基準を厳守する。